

有識者議員懇談会議事概要

- 日 時 平成26年10月9日（木）11:06～11:16
- 場 所 中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室
- 出席者 原山議員、久間議員、内山田議員、小谷議員、中西議員、橋本議員、
平野議員、大西議員
倉持統括官、森本審議官、中西審議官、山岸審議官

○議事概要

議題1 ノーベル賞受賞について

〈内閣府 安間参事官から説明〉

○原山議員 ここからが総合科学技術イノベーション会議の有識者議員懇談会です。

本日は、大臣、副大臣、政務官はご欠席のために懇談会ということにさせていただきます。

議題は1つでございます。「ノーベル賞受賞について」ということで、これは公開でお願いしたいですが、よろしいでしょうか。

では、公開ということでお願いします。

（プレス入室）

○原山議員 では、早速議題1の「ノーベル賞について」安間参事官からご説明願います。

○安間参事官 時間をいただきまして恐縮でございます。簡単にご説明させていただきます。

既に皆様方ご案内のとおりでございますが、調-1にございますとおり、今週月曜日からノーベル賞各賞の発表が行われてございます。ノーベル賞につきましては、皆様方ご案内のとおりでございます。アルフレット・ノーベルの遺言書に記載されております5分野、それからそれにプラスして経済学賞、6分野について毎年発表しているものでございまして、小谷先生のご専門でございます数学は入ってございません。申し訳ございません。私が謝る必要があるわけではないですけれども。

毎年、橋本先生、平野先生も候補者として取り上げられているわけでございますが、今年度、昨日まで生理学・医学賞、物理学賞、化学賞の発表がございました。また、本日は、自然科学とは離れますが文学賞、そして金曜日に平和賞、来週月曜日に経済学賞ということでございます。

おめくりいただきまして2ページでございます。最初になります。生理学・医学賞につき

ましては、ご覧の三方、英国、米国二重国籍のジョン・オキーフ博士とノルウェーのモゼールご夫妻でございます。

3 ページ目でございます。後ほどまたご紹介いたしますが日本の3名の方がノーベル賞物理学賞を受賞されました。これは3名の受賞ということ、それから物理学賞、ともに6年ぶりということでございます。

それから、ページをおめくりいただきまして8 ページ目でございます。6年前はこの物理学賞に3名、その後に下村先生が受賞されておりましたが、昨日はこのお三方、米国お二人、ドイツがお一人という形でノーベル賞化学賞の発表がございました。

ページお戻りいただきまして、4 ページ目でございます。これも既にご案内のとおりでございまして、例えば各地でもこのお三方につきまして、早くから受賞が期待されておりましたので、各社もいろいろ予定稿もあったようで大変多くの記事になってございます。このお三方についてはご案内のとおりでございます。

おめくりいただきまして、5 ページ目、これが当日のノーベル委員会からのプレスリリースでございます。6 ページ、7 ページにはその仮訳をつけてございます。そのうちの幾つかのところに勝手にマーカーをつけさせていただきました。

最初の部分でございますが、これは当日の発表でもございましたが、greatest benefit to mankind、この言葉自体はノーベルの遺言書の中にも書いてございます。まさに人類に対して多大な貢献ということで、今回の発明というものはノーベルの遺志にまさに合致した業績であるということが述べられております。

それを裏づけるように、このプレスリリースの中でもその下にございますが、彼らの発明というのは革命的なものであるということ、またほかの人たちがうまくいかなかった分野について成果を上げたということが述べられております。

また、単に発明しただけではなくて、この三方についてはその業績について更なる改善に努められたということ。そして、右側の段落でございますけれども、今回の青色LEDが社会的な効果、これまでの白熱灯、蛍光灯に比べてどういった省エネ効果、または電力的な効果があるかということについてのご紹介でございます。また、最後のところでございますけれども、世界の15億人以上の方に対してLEDランプが生活の質を高めることに有望、ということが述べられてございます。

なお今回の三方の受賞に関しまして、政府としても直ちに祝意を表したところでございまして、安倍総理から直接に赤崎先生にお電話をされております。

山口科学技術政策担当大臣からも談話が発表されると同時に、当日会見をされました。その中では、特に大臣地元徳島ゆかりの中村先生ご受賞ということでございまして、大変感慨深いということもおっしゃっておられました。

11ページ目、ご案内のとおりでございますけれども、今回の赤崎先生、中村先生、天野先生のご功績について、これはIMPACTのときに作成した資料をお借りしておりますが、トップサイエンティストとプログラムマネージャーが協業した成果という形でもととは赤崎先生の理論的な業績、それを中村先生が実用化につなげたということを整理してございます。

なお、12ページ目、天野先生でございますが、このSIPの次世代パワーエレクトロニクスの中の基礎技術開発の部分について、中心研究者としてご参画いただいております。SIPにノーベル賞受賞者が入ったプロジェクトということになっております。

13ページ目でございますが、これは関連としまして、今年12回目になりますが、平成15年度から行っております産学官連携功労者表彰、各議員の皆様方には選考委員としてもご協力いただいておりますが、この第1回目の功労者表彰の学術会議会長賞として赤崎先生は、青色発光デバイスの開発というもので受賞されております。

14ページ、15ページでございます。今回、20年ということでございますが、LEDの市場規模に関する統計の数字を載せさせていただきます。矢野経済研究所からの数字でございますが、照明市場全体として1兆260億円のうち、LED照明全体で4,200億円の市場規模があるということでございます。

なお、補足でございますが、5ページ目にお戻りください。この中の右下、中村先生の箇所に、American citizenとございます。これはどういうことかということ、日本人ということですが、中村先生自身アメリカに移られた後、米国の市民権、citizenshipをお取りになっております。研究を行うことで、軍関係の研究をするに当たっては、やはりアメリカではcitizenshipがないといけないということがございまして、それでcitizenshipを取られた。かたや日本の国籍法上の対応からアメリカの市民権を取ったということが日本の国籍の放棄、自動的になくなるということで、日本国籍がないということで、形の上では米国籍となっております。ご本人としては、日本の国籍を放棄したわけではないというお話はございましたが、手続的には米国籍という形になってございます。

そういうことで、最後でございますが、9ページ、10ページ目でございます。昨日までの数字全体を示しております。トータルで全体22名の文系も含めて受賞となっておりますが、そのうち2008年の南部先生、今年の中村先生につきましては、米国籍ということで、アメリカ

に計上させていただきます。

10ページ目は全世界の状況を示しております。駆け足でございますが、以上です。

○原山議員 ありがとうございます。非常に明るい喜ばしいニュースであって、最後の点は、私の個人的な意見を言わせていただきますと、人材の流動性、日本の魅力を高めるということはマストと思われるのが二重国籍を許すということなので、これは私のライフワークとしてこれからやっていきたいと思っております。個人的なところですみません。

何かコメントがございましたら、時間もありませんが、これをドライバーとしてますます科学技術イノベーションを進めていくというのが我々のスタンスです。プラスアルファの効果をうまく使っていきたいと思います。

よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

これで、本日の有識者懇談会は終了させていただきます。

この後、打合せがございますので、議員の方はここでお残りいただきたいと思っております。